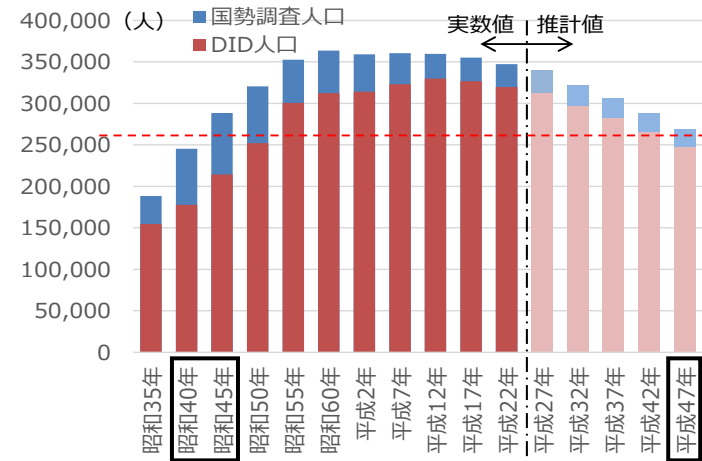


1. 旭川市の現状

人口減少が続くと想定されています

本市も、他都市と同様に少子高齢化とそれに伴う急速な人口減少に直面しており、このまま減少が続けば、約20年後には現状の約8割の人口になると考えられています。

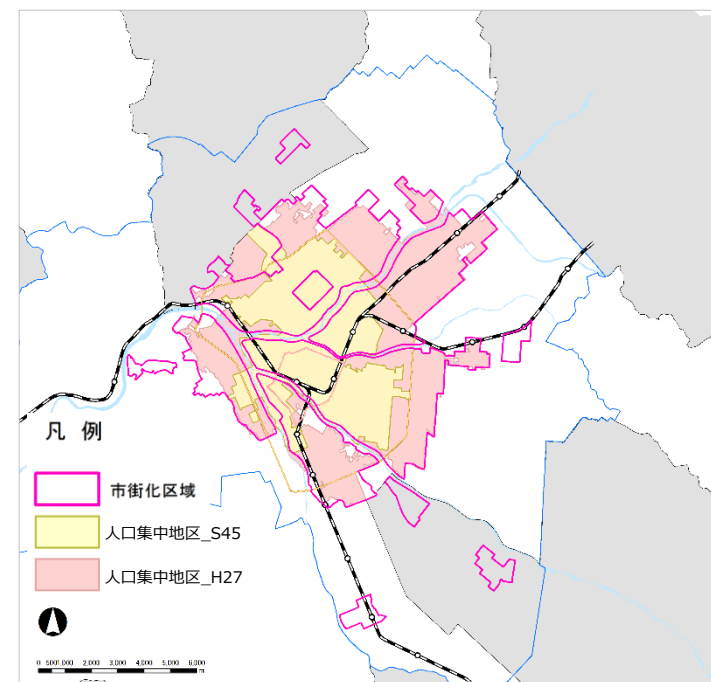
なお、平成47年度の人口は、昭和40～45年度の頃の人口規模と同程度になると考えられます。



これまでは人口増で市街地拡大⇒今後は・・・

昭和45年の状況から見ると、人口増加とともに、市街地が広がってきました。そのため、道路や上下水道、公園などの公共インフラも拡大し、公共施設も増加してきました。

今後、少子高齢化や人口減少が進む中では、税収が減っていき、さらに福祉のための費用が大きく増えることも想定されることから、今のままの水準で公共施設等を維持していくことは大変困難になります。



2. 今後も都市を持続していくために必要なこと

今後の人口減少の進行が各地域に及ぼす影響を、立地適正化計画の仕組みを使って最小限とし、望ましいまちの姿の実現を図ります。

人口減少・少子高齢化・人口密度の低下・財源の縮小等が進む

このまま何もしないと・・・

<ul style="list-style-type: none"> ✓ 利用者の少なくなった生活利便施設の閉店や郊外移転 	<ul style="list-style-type: none"> 拠点の利便性や賑わいが低下し、周辺住民の生活が不便に
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 公共交通の利用者減少が続き、減便・廃線など、サービスレベルの低下がさらに進む 	<ul style="list-style-type: none"> 自家用車を持たない人の生活が不便に
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 草刈りや除雪、改築など、管理されない空き家・空き地が増加 	<ul style="list-style-type: none"> 防犯面や地域コミュニティが低下
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 税収減や社会福祉費の増大等で、公共施設等の維持管理費の確保が困難に 	<ul style="list-style-type: none"> 除雪回数の減少や公共施設等の適正管理が困難になるなど、公共サービスの質が低下



こんなまちを目指したい！！

『誰もが徒歩や公共交通により安心快適に暮らせるまち』
『北北海道の都市活力を牽引するまち』

<ul style="list-style-type: none"> ● 生活利便施設や居住地等の計画的な集積 ● 空き家・空き地等の既存ストックの有効活用 ● 人口規模に見合った施設整備等 	<ul style="list-style-type: none"> 拠点の利便性向上や賑わいの創出と地域コミュニティの確保を図り、周辺住民の良好な住環境を維持したい！！
<ul style="list-style-type: none"> ● バス路線や交通手段の見直し ● バス待合いなどの交通結節機能の充実 ● 歩道や駐輪場など施設整備等 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の特性に見合った公共交通網の形成を図り、誰もが徒歩や公共交通により安心快適に暮らすことのできる住環境を実現したい！！



中心市街地などでは・・・

充実した交通結節機能を活かし、大規模な商業施設や病院、オフィス、文化施設など、中心部にあるべき都市機能の維持・集積を図るとともに、まちなか居住を促進することにより、本市のみならず、北北海道の広域拠点としての発展を目指します。

地域核拠点では・・・

スーパーや診療所、集会施設、バス待合い機能など、日常生活に必要な都市機能や交通結節機能の維持・充実を図ることにより、身近な生活圏における賑わいのある拠点の維持・充実を目指します。

地域核拠点周辺や幹線道路沿いでは・・・

地域核拠点に集積する都市機能や幹線道路を通る公共交通の効率的かつ持続的な活用を図るため、利便性の高いエリアに集合住宅や一定規模以上の宅地開発等を促進し、人口密度の高い居住地の形成を目指します。

既存の良好な住宅市街地では・・・

これまで通りの地域コミュニティや暮らしやすさを確保するため、空き家・空き地などの活用方法や公共交通のあり方等の検討を行い、戸建て住宅を中心とした、ゆとりある住環境の維持を目指します。

※ 地域核拠点とは・・・地域商業地を中心に、日常生活に必要な機能と地域の核となる都市機能を集積した居住地の中心として旭川市都市計画マスタープランで定めた13の拠点のこと

3. 旭川市で目指す都市構造のイメージ

人口が現在の半分近くまで減少すると予想される40から50年後を見据えつつ、今後の約20年間で本市が目指すべき、「持続可能で安心快適なまちづくり」に向けた都市構造を下図のようにイメージして計画を策定します。

【中心市街地】

交通結節機能を活かした市民のみならず北北海道の広域拠点にふさわしい都市機能を集積する地域核拠点

- 【居住機能】：中高層共同住宅等を誘導
- 【都市機能】：高次都市機能—維持・誘導
都市機能—維持・充実
- 【公共交通】：維持・充実，結節機能の強化

高次都市機能：市役所，地域医療支援病院，大型複合商業施設，コンパウンド施設，多世代交流型複合施設
 主な都市機能：行政機能，介護福祉機能，子育て支援機能，医療機能，商業機能等
 ※多世代交流型複合施設は，子育て支援機能や高齢者福祉機能等と居住機能を組み合わせた上で，コミュニティスペースを設けた施設
 ※高次都市機能を中心市街地以外で建築する場合は，事前に届出が必要 → 中心市街地へ誘導

【地域核拠点（一般市街地型）】

地域特性に応じた日常生活に必要な機能と地域の核となる都市機能を集積する「中心市街地」「地域核拠点（郊外型）」以外の地域核拠点

- 【居住機能】：共同住宅や一定規模の宅地開発等を誘導
- 【都市機能】：維持・充実
- 【公共交通】：維持・充実

主な都市機能：行政機能，介護福祉機能，子育て支援機能，医療機能，商業機能等

【地域核拠点（郊外型）】

支所を中心に農村地域の核となる地域生活に必要な機能を集積する地域核拠点

- 【居住機能】：共同住宅等を誘導
- 【都市機能】：維持・充実
- 【公共交通】：「中心市街地」「地域核拠点（一般市街地型）」との移手段の維持

主な都市機能：行政機能，子育て支援機能，金融機能等

都市機能の誘導と居住の集約化の区域に関する考え方

【居住の集約化】 非居住地や災害発生の恐れがある地域を除く，地域核拠点（中心市街地含む）とその周辺及び公共交通等の主要幹線沿道（概ね100～300m）を「人口密度の高い居住地を形成する区域」の候補として検討しています。

【都市機能の誘導】 地域核拠点（中心市街地含む）の特性を「交通」「人口」「機能」の特徴で分類し，「中心市街地」では高次都市機能の誘導，「一般市街地型」では地域特性に応じた都市機能の維持・充実，「郊外型」では地域生活を維持するコミュニティ機能の維持を図っていくことを検討しています。

【主要幹線沿道居住区域】

公共交通の効率的な活用に向け人口密度の高い居住地の形成を目指す区域

- 【居住機能】：共同住宅や一定規模の宅地開発等を誘導
- 【公共交通】：維持・充実，結節機能の強化

範囲：公共交通等の主要幹線沿道（奥行き概ね100～300m）

【拠点周辺居住区域】

地域核拠点の都市機能の効率的な活用に向け人口密度の高い居住地の形成を目指す区域

- 【居住機能】：共同住宅や一定規模の宅地開発等を誘導
- 【公共交通】：維持・充実

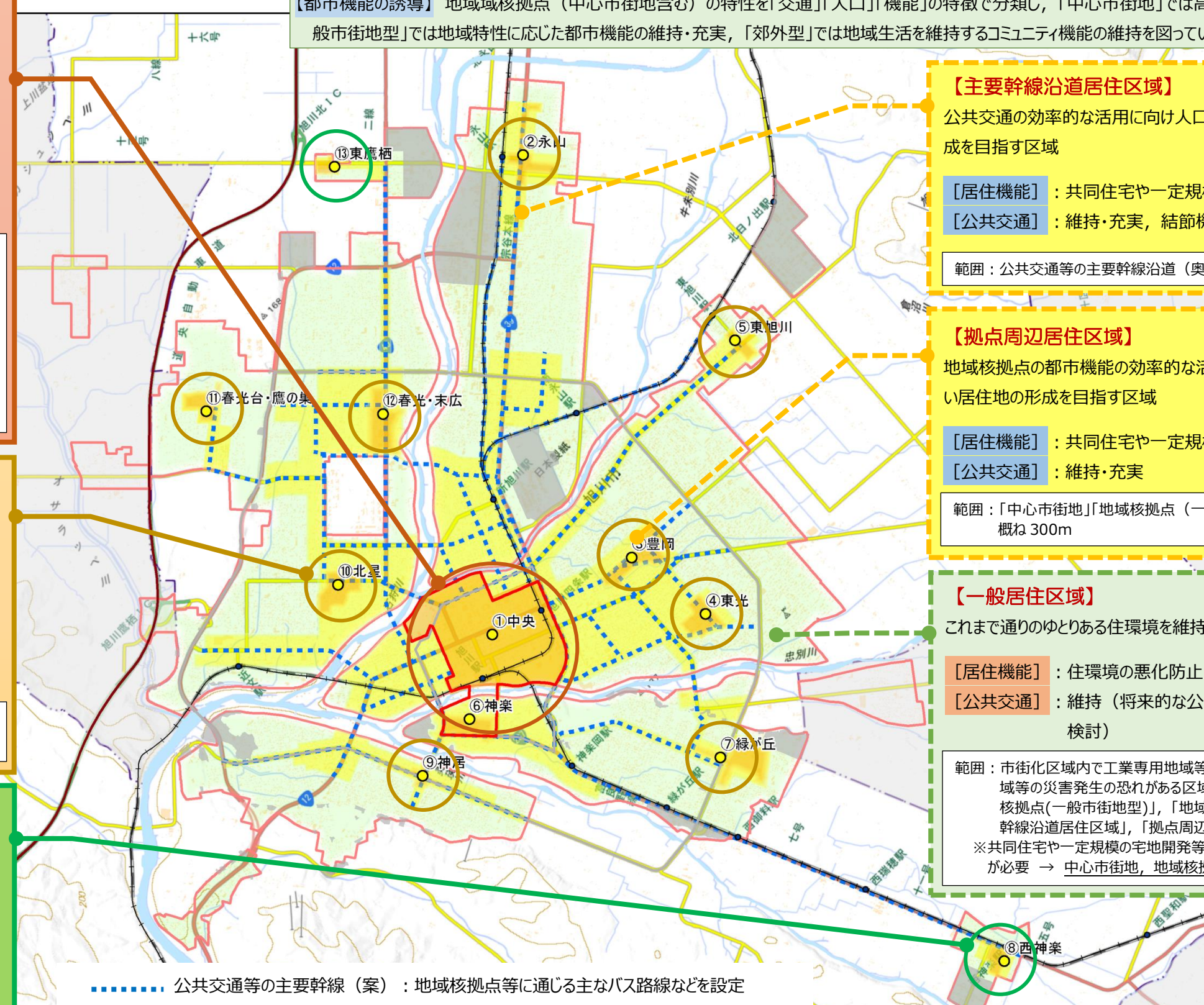
範囲：「中心市街地」「地域核拠点（一般市街地型）」縁部から概ね300m

【一般居住区域】

これまで通りのゆとりある住環境を維持する区域

- 【居住機能】：住環境の悪化防止
- 【公共交通】：維持（将来的な公共交通体系の在り方を検討）

範囲：市街化区域内で工業専用地域等の非可住地，災害危険地域等の災害発生の恐れがある区域，「中心市街地」，「地域核拠点（一般市街地型）」，「地域核拠点（郊外型）」，「主要幹線沿道居住区域」，「拠点周辺居住区域」を除いた区域
 ※共同住宅や一定規模の宅地開発等を行う場合は，事前に届出が必要 → 中心市街地，地域核拠点や居住区域へ誘導



..... 公共交通等の主要幹線（案）：地域核拠点等に通じる主なバス路線などを設定

公共交通等の主要幹線は現在策定中の「地域公共交通網形成計画」との連携が必要であるため，現時点での案となります。